



日本物理学会 第62回年次大会に参加して

人間文化研究科 物理科学専攻

博士前期課程2年

桑田真依子

今年の日本物理学会第62回年次大会は、9月21日から24日まで、北海道大学札幌キャンパスで開催されました。今回は年次会ということで、全領域がひとつのキャンパスで行われ、大変規模の大きな学会でした。

私が所属している素粒子・宇宙論領域の講演は、北大の理学部2, 7号館と、向かえに建つ文系共同講義棟で行われました。初日には素粒子論領域で、所属研究室の高橋先生の講演がありました。また、連日、各領域でシンポジウム講演や招待講演・企画講演等が開かれ、現代の代表される研究講演をたくさん聴くことができました。特に、初日の宇宙物理領域の若手奨励賞受賞記念講演では、向山信治さんの「宇宙論で探る高次元時空」の講演や、NASAの沼田健司さんの「鏡の熱雑音の直接設定」の講演が興味深かったです。他にも2日目に行われた「素粒子と宇宙」のシンポジウム等があり、多くのことを学びましたと思います。

最終日には、宇宙物理領域にて、本会の主な参加目的でもあった、自身の発表がありました。今回は「回転するブラックホール時空におけるスカラー場のエネルギーの流れと準正規モード」という題目での研究発表でした。前回の春季大会での発表の経験から、



特に、 $(2+1)$ 次元 B T Z 時空におけるスカラー場の固有値問題の設定と関連を深めることができ、ブラックホールの回転による効果についてより深めることができたので、次に目指す $(3+1)$ 次元へ繋げていける発表ができたと思います。また、聴講していただいた方々からも、大変有意義な質問や議論があり、より理解を深めることができたように思います。今後の研究に繋げ、生かしていきたいです。

また、本会期中から、北大の総合博物館で『湯川・朝永生誕百年記念展』が開催されていきました。昨年から全国を回って開かれているようで、北海道会場では、お二人と北海道とのゆかりについても展示されていきました。また、会場では、元物理学会会長の小沼通二氏と、北大の石川先生とのトークショーがあり、ノーベル賞受賞に至る歴史や、お二人の研究の関わりについて等、貴重な話を聞くことができました。



最終になりましたが、この度の学会に際し、初めての発表という機会を与えてくださったこと、限られた時間の中、全力で支えてくださった先生方に深く感謝致します。また、イニシアティブに感謝致します。ありがとうございました。